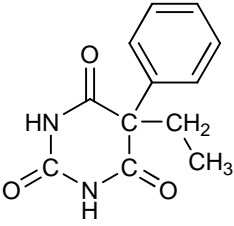


2	CAS 番号：50-06-6	物質名：5-エチル-5-フェニル-2,4,6(1H, 3H, 5H)-ピリミジントリオン
化審法官報公示整理番号：9-2248 化管法政令番号： 分子式：C <sub>12</sub> H <sub>12</sub> N <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 分子量：232.24		
		構造式： 

1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は  $1.2 \times 10^3$  mg/1,000g (25)、分配係数 (1-オクタノール/水) (log Kow) は 1.14 (pH=7.4)、蒸気圧は  $1.4 \times 10^{-11}$  mmHg(25、計算値)である。生物分解性 (好氣的分解) は難分解性と判断される物質であり、生物濃縮性は高濃縮性ではないと判断される物質である。また、加水分解性に関するデータは得られなかった。主な用途は、医療用医薬品 (催眠・鎮静、バルピツール酸系抗てんかん剤) である。

2. ばく露評価

化学物質排出把握管理促進法 (化管法) 第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。Mackay-Type Level III Fugacity Model により媒体別分配割合の予測を行った結果、大気、水域、土壤に等量排出された場合、土壤に分配される割合が多い。

水生生物に対するばく露を示す予測環境中濃度 (PEC) は、公共用水域の淡水域では 0.16 µg/L 程度、海水域では概ね 0.043 µg/L となった。

3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値について、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害に関する 72 時間 EC<sub>50</sub> 100,000 µg/L 超、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害に関する 48 時間 EC<sub>50</sub> 95,800 µg/L 超、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の 96 時間 LC<sub>50</sub> 97,900 µg/L 超が信頼できる知見として得られたが、藻類及び魚類では試験最高濃度でも影響が見られなかった。また、甲殻類の毒性値は限度試験により得られたものである。したがって、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) は設定しないこととした。

慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害に関する 72 時間 NOEC 100,000 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害に関する 21 日間 NOEC 31,100 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC として 310 µg/L が得られた。

本物質の PNEC には、甲殻類の慢性毒性値から得られた 310 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域で 0.0005、海水域では 0.0001 となるため、現時点では作業の必要はないと考えられる。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	ばく露評価		PEC/PNEC 比	PEC/PNEC 比による判定	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)			
甲殻類 オオミジンコ	慢性	NOEC 繁殖阻害	100	310	淡水	0.16	0.0005		
					海水	0.043	0.0001		

4. 結論

	結論	判定
生態リスク	現時点では作業は必要ないと考えられる。	

[リスクの判定]     :現時点では作業は必要ない、     : 情報収集に努める必要がある、     : 詳細な評価を行う  
候補、× : 現時点ではリスクの判定はできない  
(    ): 情報収集を行う必要性は低いと考えられる、(    ): 情報収集等の必要があると考えら  
れる、( - ): 評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す